

学術情報処理研究

Journal of Academic Computing and Networking

投稿規程

大学 ICT 推進協議会 論文誌編集委員会

2023 年 2 月

目次

1	目的と取扱範囲	1
2	論文種別	2
3	倫理方針	2
4	査読プロセス	6
5	著作権, オープンアクセスと料金	9
6	投稿記事の投稿	11
7	投稿記事の準備	11
8	採録された投稿記事	14
9	連絡・問い合わせ	14

1 目的と取扱範囲

学術情報処理研究誌(以下、「本誌」という。)は, 大学 ICT 推進協議会(以下, 「AXIES」という。)論文誌編集委員会(以下, 「編集委員会」という。)が編集・発行する和文のオープンアクセスジャーナルである。オンラインで年 1 回発行されており, 掲載と同時に誰もが閲覧できる。

本誌は, 大学等高等教育・研究組織に関連した ICT 技術開発運用の研究成果, ICT を活用した教育実践結果などについて広く周知することを目的として発行している。

情報基盤システム構築運用, 情報処理教育, 情報セキュリティ, 認証基盤応用等に関する投稿記事を広く募集する。投稿記事は, 著者が自発的に執筆し, 投稿するものでなければならない。

編集委員会は投稿記事に対し, 論文誌の目的に照らし合わせ, 新規性, 有効性を認めた場合, 採録と判定する。また, 有効性が高い場合は, 新規性が相対的に不十分であっても採録の対象とする。

本誌で掲載する論文の種類は, 論文, レター, 招待論文・解説の 3 種類である。論文は, 学術, 技術上の研究あるいは開発成果の記述であり, 新規性, 有効性などの点で読者にとって有益である論文, レター

は、新規性、有効性について、論文としては及ばないものの、掲載・周知が読者にとっても有益である論文、招待論文・解説は、先端トピック、注目開発にかかる技術論文もしくは解説をいう。

本誌では、全ての種別の論文についてシングル・ブラインド方式の査読を行っている。また、論文の出版は、出版倫理委員会(COPE)のガイドライン*1に基づいた手順によって行われている。

本誌が想定する読者ならびに記事投稿者は、教育機関における ICT 利活用、情報基盤設計運用、情報処理教育に関係する教育機関の教職員や技術系職員、学生、企業のエンジニアである。

論文はオープンアクセスであり、J-STAGE *2 にて公開される:

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jacn>

投稿論文の研究結果を、分野を越えて周知するとともに、AXIES 以外の関連コミュニティからも広く投稿を募る。

2 論文種別

本誌は以下に挙げる種別の論文を掲載する。投稿記事は種別によらず、全て査読を実施する。

論文 1 節で示された取扱範囲における学術、技術上の研究あるいは開発成果が記載されており、新規性・有効性が認められる記事。概要、はじめに、参考文献、おわりに、の各節からなる標準書式で記述する。

レター 論文にはあたらないものの、一定の新規性・有効性が認められ、読者にとって価値のある記事。書式は上記論文と同様である。

招待論文・解説 当該分野における最近の、あるいは重要な進展について、先端トピック、注目開発にかかる技術論文や解説が記載された記事。幅広い分野における複数の側面から重要性を探求できるものを求める。招待論文・解説の執筆は、基本的に編集委員会委員長(以下、「委員長」という。)からの依頼により行われるが、関心を持つ著者からの投稿も歓迎する。

3 倫理方針

本誌は関連学術出版における一定の水準を維持している。本誌に記事を投稿する前に、著者は本誌の方針を読み、遵守していることを確認しなければならない。編集委員会委員(以下、「委員」という。)がこれらの方針に準拠していないと判断した投稿記事に対し、本誌は査読なしで返戻、または撤回する権利を保持する。

本誌の著者、委員、査読者、出版者が被る研究倫理および出版倫理に関する責任を以下に示す。

投稿記事は、いかなる言語においても投稿記事の一部または全部が未発表・未発行の内容であり、本誌以外の媒体において出版が検討されていないものに限る。

*1 <https://publicationethics.org/>

*2 国立研究開発法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルの無料公開システム。 <https://jstage.jst.go.jp>

投稿記事と、以下のいずれかに該当する当該記事の著者および著者グループによる論文の内容が、編集委員会によって同一と判断された場合は、二重投稿とみなし、採録しない。

1. 学会・出版社等が発行する論文審査を伴う刊行物に投稿中の論文
2. 学会・出版社等が発行する学術雑誌に、すでに登載あるいは採録された論文

なお、AXIES が主催・協賛する研究集会等へ同時期に投稿された講演論文、ならびにプレプリントサーバへの投稿・登載された論文等(3.3 節を参照)と、投稿記事が採録された場合の論文は同一視しない。

本誌において当該投稿記事の掲載可否が最終的に決定される前に他の媒体へ投稿することを選択した場合、著者はまず本誌から投稿記事を取り下げなければならない。

3.1 投稿

本誌は、世界中の著者からの投稿記事の投稿を歓迎する。著者としての資格は問われない。著者の所属組織について、AXIES への加盟非加盟は不問とする。ただし、全著者の ORCID 提示を必須とする。ORCID 未取得の場合は、投稿までに ORCID ウェブサイト^{*3}にて取得すること。投稿記事は、全ての著者が、その内容を事実に基づいたものであると保証し、投稿に同意し、発表する権利を有するものであるとみなす。

3.2 オリジナリティ

投稿記事はオリジナルのものに限る。投稿記事について、編集委員会が他者の著作物からの剽窃があると判断した場合は、剽窃論文とみなして採録しない。また、論文の採録決定後に剽窃の事実が判明した場合は、採録を取り消すことがある。

3.3 プレプリント

本誌では、研究の普及を促進するために、投稿前または投稿と並行して、Jxiv^{*4} など、コミュニティに認知されたプレプリントサーバへ著者が投稿記事をプレプリントとして提出することを認める。なお、プレプリントサーバは、オンラインリポジトリとは異なる。また、AXIES の年次大会講演論文集(オンライン)^{*5}もプレプリントサーバとみなす。

投稿記事の新規性を評価する際に、当該投稿記事が本誌へ投稿された日から4ヶ月前の日以降にプレプリントサーバへ投稿・掲載された他の関連投稿記事は、懸念の対象とはしない。

この方針は、一次研究を記述した投稿記事のオリジナルな版にのみ適用される。査読者のコメントを受けて再編集された原稿(以下、「修正原稿」という。)、出版のために受理された原稿(以下、「最終原稿」という。)や本誌に掲載された論文は、プレプリントサーバに掲載された状態にあってはならない。また、投稿記事が本誌から出版されたら、対応するプレプリントに対してすみやかに、本誌の論文等へアクセスできるリンク等を表示させる必要がある。

プレプリントサーバに投稿記事を提出する場合、著者は当該記事の著作権を保持することが望ましい。

^{*3} <https://orcid.org>

^{*4} 国立研究開発法人科学技術振興機構が運営するプレプリントサーバ。 <https://jxiv.jst.go.jp/index.php/jxiv/>

^{*5} <https://axies.jp/report/publications/papers/>

3.4 著者リスト

著者名とその所属組織によって構成されたデータを著者リストという。本誌へ提出された投稿記事は、全ての著者が著者リスト構成について承認しているものとみなす。

投稿記事の投稿受領後、著者リストの変更(著者名の追加や削除、著者順の再配置など)は、原則として認めない。ただし、著者は、条件付採録時の修正過程において、著者の増減や順序変更が必要になった場合、編集委員会に対して変更を申し出ることができる。変更を申し出る場合、修正原稿提出時に理由書の提出、および、条件付採録に対する回答文中にもその旨を明記しなければならない。編集委員会は、理由書の内容が妥当であると判断した場合、これを認めることがある。

著者は、論文の構想やデザインまたはデータの取得、開発、分析、解析に実質的に貢献した者、あるいは論文の起草や実質的な改訂を行った者であること。

また、著者は、自分自身が当該研究に寄与したことについて責任を負うことに同意し、どの共著者が当該研究の他の部分に責任を負うかを確認すること。その上で、当該研究の公正性を保障し、最終原稿およびその後の投稿を承認すること。著者リストに含まれない研究貢献者は、謝辞に記述すること。

3.5 画像の同一性

著者は画像をデジタル加工・処理することができるが、以下のすべてを満たすものでなければならない。

1. 調整が最小限に抑えられていること
2. (局所的・部分的な加工でなく)画像全体に施されていること
3. コミュニティの基準に沿った処理であること
4. 処理を行った旨を投稿記事に明確に記載していること。

投稿記事に含まれる全ての画像は、元のデータを正確に反映していなければならない。著者は、画像について部分的な移動、削除、追加、強調を行ってはならない。

編集委員会は著者に対し、未加工のオリジナル画像の提出を要求する権利を有する。要求された画像が提出されなかった場合、投稿記事は返戻または撤回されることがある。

3.6 著作権のある資料の転載

著者自身が著作権を保持しない資料が投稿記事に含まれる場合、著者はその著作権者から転載について許諾を得る必要がある。図・写真などを転載する場合は、その所有者に必ず了解を得た上で、その出典を明記すること。

既に出版されている資料が投稿記事に含まれている場合、著者はその著作権者および出版者から転載について許諾を得る必要がある。

投稿記事には、転載する資料すべてについての転載許可書のコピーを添付しなければならない。

3.7 データおよび資料の入手可能性

著者は、公開されているデータや資料の出所(公開リポジトリや商用データベース等)を開示しなければならず、必要に応じて登録番号や企業の詳細を投稿記事に記載する必要がある。

著者は自分のデータや資料を補足資料として公開するか、もしくはコミュニティに認知されている公的データベースやリポジトリへ投稿記事をリンクすることにより、アクセス可能な状態にすることができる。全てのデータセットは、査読の過程で委員と査読者が完全に利用できるようにし、論文の出版日までに一般に公開しなければならない。著者は、論文が本誌に掲載された日から少なくとも3年間はデータセットを維持すること。

本誌は、論文の根拠となるデータを、J-STAGE Data^{*6}において公開することができる。ただし、採録決定した論文にのみ公開を認める。J-STAGE Dataからのデータ公開にあたっては、著者は公開するデータおよびそのメタデータを編集委員会に提出し、論文内における当該データ言及部分も含め、査読を受けねばならない。J-STAGE Dataでは、データはCC 4.0 (CC-BY)ライセンスおよびDOIが付与されたうえでオープンアクセスとして公開される。

3.8 著者の利害関係と利益相反

透明性の観点から、本誌では全ての著者に、投稿記事に関連する競合または利益相反がある場合、その旨を宣言することを求めている。利益相反は、著者の公平な研究の実施および報告に影響を及ぼす可能性のある状況が顕在する、認識されている、あるいは潜在する場合に生じる。利害の衝突の可能性としては、商業的または財務的な利害の競合、商業的な所属、コンサルティングの役割、株式の所有等が例として挙げられる。

著者は、自分の論文のための全ての競争的資金の出所を、投稿記事の謝辞の節に記載する必要がある。

3.9 守秘義務

本誌は未発表原稿の機密性を維持する。本誌へ投稿記事を投稿することにより、著者は記事に関する全ての連絡(編集委員会、委員、査読者からの連絡)の機密事項を厳守することを保証するものとみなす。

3.10 セルフアーカイビング(グリーン OA)方針

著者は、セルフアーカイビング(グリーンオープンアクセス)として自身の論文を、オンラインリポジトリに登録できる。すなわち、本誌は論文の著者に対し、最終原稿受付から本誌掲載までの期間は最終原稿をオンラインリポジトリに論文を登録することを認める。また、本誌掲載後にオンラインリポジトリに登載する場合、J-STAGEで公開される本誌の当該論文PDFを用いることはさまたげない。

3.11 ダークアーカイブ

J-STAGEでは、本誌を含むデジタルコンテンツを、Portico^{*7}に保存している。自然災害等によりJ-STAGEで一定期間以上コンテンツを提供できない事態が発生した場合、本誌掲載論文はPorticoにて公開される。

^{*6} 国立研究開発法人科学技術振興機構が運営するデータリポジトリ <https://jstagedata.jst.go.jp>

^{*7} 米 Ithaka が運営するダークアーカイブサービス。 <https://www.portico.org/>

4 査読プロセス

4.1 編集および査読プロセス

本誌はシングル・ブラインド方式の査読を採用しており、査読管理システムにより管理される。詳細は 6 節を参照のこと。

1. 投稿記事は、査読委員により初回査読審査が行われる。審査結果は次のいずれかとなる：
 - (a) 採録
 - (b) 条件付き採録
 - (c) 不採録
2. 初回審査結果は、査読管理システムに連動した電子メールにて通知される。
3. 条件付採録の場合は、採録条件が提示される。
 - 採録条件に対する回答文を作成すること。回答文には採録条件に対する見解と、修正方針の概要を含むこと。
 - 修正加筆等を行い、修正原稿を作成すること。
 - 修正原稿と回答文を一つの PDF にまとめておくこと。
4. 修正原稿 + 回答文の再投稿には、期限を指定する(概ね 4 週間以内)。期限内に投稿を行うこと。期限内に再投稿がなされない場合は原則不採録とする。修正原稿 + 回答文の再投稿は原則 1 回とする。
5. 修正原稿 + 回答文については第二回査読審査を実施する。審査結果は、採録か不採録のいずれかとなり、査読管理システムに連動した電子メールにて通知される。

4.2 査読と再投稿時の取り下げ

著者は投稿記事を取り下げることができる。この場合、書面で編集委員会に申請し、承認を得なければならない。ただし、編集委員会において、二重投稿あるいは剽窃・盗用として調査中、もしくは判断された投稿記事は取り下げることができない。

4.3 査読者の選定

委員は、担当する投稿記事に対し、論文、招待論文、解説については 2 名、レターには 1 名の査読候補者を推薦する。査読候補者は、当該分野における専門知識、評判、他者からの推薦、およびまたは本誌における査読者としての経験に基づいて選出される。編集委員会は、査読候補者から査読者を承認し、査読を依頼する。

投稿記事の採否を審査するために、投稿記事の学術・技術分野を専門とする査読者によるピアレビューを行う。著者と同一組織に所属する者など利害関係を有する者は選任しない。

査読の査読者候補への打診は、論文投稿受付期間終了後 2 週間以内に行われる。査読者は、査読打診を受諾してから 4 週間以内に最初の査読レポートを提出することが求められる。これらのスケジュールに遅延が予想される場合は、できるだけ早く編集委員会に連絡する必要がある。

4.4 査読結果の取扱

委員は、査読者の判定原案およびコメントから総合的に判断し、判定案、著者に開示する査読結果、条件付き採録の場合は採録の条件を策定のうえ、編集委員会・委員長に報告する。

条件付き採録と判定された投稿記事に対する修正原稿が再投稿された場合、委員がその修正原稿および回答文から総合的に判断し、最終判定案を策定する。この際、初期投稿時の査読者に修正原稿等についての意見を照会することはさまたげない。

4.5 採録基準

投稿記事の採否の決定は編集委員会が行い、採否およびその理由を著者に通知する。論文誌の目的に照らし合わせて新規性、有効性が認められる場合、採録とする。また、有効性が高い場合は、新規性が相対的に不十分であっても採録の対象となる。投稿記事が本誌の掲載要件を満たし、出版された際に本誌へ大きく貢献すると思われる場合、委員は本誌への掲載を推薦する。

本誌に掲載される投稿記事は次の場合に不採録とする。

1. AXIES で扱う分野と大きくかけ離れている
2. 本質的な点で誤りがある
3. 本質的な点が公知・既発表のものに含まれており、新規性ならびに有効性が不明確
4. 内容に信頼できる根拠が示されていない
5. 記述や議論の進め方などに不明確な点が多く、内容の把握が困難
6. 条件付採録で示した条件が満たされていない(修正原稿再投稿の場合のみ)
7. その他編集委員会が不相当と判定した場合

編集委員会において、二重投稿あるいは剽窃・盗用と判断された投稿記事は不採録となると共に、当該投稿記事の全著者に対して罰則が適用される。

本誌に掲載される論文の採録要件は以下の通りである。

- 本誌の取り扱う領域内の、独自性のある内容であること。
- 新規性および有効性があること。
- 研究について技術的に厳密な記述がされていること。
- 本誌の読者の関心が高い事項であること。
- 当該分野において重要な発見・開発であること。

原稿が本誌の採録要件を満たしていない場合、委員は却下を勧告することがある。

4.6 編集委員会の独立

AXIES は、当該論文誌における全ての編集上の決定について編集委員会に完全かつ唯一の責任を認めている。AXIES は、根本的な編集行程の破綻がある場合を除き、編集上の決定には関与しない。

編集上の決定は、原稿の科学的な観点のみに基づいて行われ、本誌の他の利益とは完全に切り離されている。著者の出版費用を支払う能力は、本誌への掲載採否には影響しない。

4.7 異議申し立て

不採録判定に対する異議申し立ては、著者は編集委員会に対して不採録決定日から 10 日以内に書面にて行うことができる。二重投稿ないしは剽窃の認定を受けた著者は編集委員会に対して、通知日から 14 日以内に限り書面により異議申し立てできる。編集委員会は、異議申し立てについて審議し、その結果を著者に通知する。編集上の判断に誤りがあると思われる場合、著者は編集委員会に異議を申し立てることができる。異議申し立ては、著者が査読者や委員の誤解や誤りの詳細な証拠を提示した場合にのみ検討される。異議申し立ては委員長が慎重に検討し、最終決定を行う。判断、処理については COPE のガイドラインに従う。

4.8 査読における守秘義務

本誌は投稿記事の機密性を保持する。また、委員は以下を遵守する。

- 査読者からの合理的な要求がない限り、査読者の身元を開示しない。
- 原稿やその内容について、原稿や査読に直接関与していない人と議論しない。
- 原稿のデータや情報を自らの研究や出版物に利用しない。
- 自分自身や他の人の利益のため、あるいは個人や組織に不利益を与えるために、査読の過程で得られた情報を利用しない。

ただし、二重投稿や剽窃の疑いが生じ、他学会等と連絡をとり調査を行う必要がある場合はその限りではない。

4.9 訂正文と撤回

本誌は、出版された論文の公正性を維持することの重要性を認識している。

掲載された論文に誤りがあった場合、訂正文の発行により訂正する。訂正文には、出版物の科学的な公正性、著者の評判、当該論文誌自体に重大な影響を与える誤りを記述する。掲載された論文の訂正を希望する著者は、担当委員または編集委員会に、誤りの詳細と変更後の内容を連絡する。共著者の間で訂正をめぐる意見が一致しない場合、委員長は編集委員会もしくは当該記事担当査読者に助言を求める場合がある。訂正文が発行された場合、反対意見のある著者については本文にその旨が記載される。

掲載された論文が無効または信頼できない結果や結論を含んでいたり、他の場所で発表されていたり、行動規範（研究倫理または出版倫理）を侵害している場合、撤回を行う。論文の撤回を要求する個人は、懸念事項の詳細を編集委員会に連絡することを奨励する。委員長は調査を行い、当該論文の著者に連絡して回答を得る。共著者の間で撤回をめぐる意見が一致しない場合、委員長は編集委員会または当該論文担当の査読者に助言を求める場合がある。論文が撤回された場合、反対意見のある著者については本文にその旨が記載される。

訂正文または撤回についての決定は、委員長の単独の裁量で行われる。

4.10 投稿記事著者としての委員

委員長を含む委員が、本誌に投稿記事を投稿した場合、自身は当該論文の査読プロセスから除外される。オンラインの査読管理システムでは、著者として記事を閲覧することができるが、委員としては査読情

報等を参照することができないため、査読の機密性は保たれる。

本誌の委員が執筆した投稿記事は、他の原稿と同様のプロセスで査読と編集上の決定が行われる。

4.11 倫理違反の可能性がある場合の対応

本誌は、倫理違反の申し立てがあった場合には、本誌の方針および COPE のガイドラインに従って対応する。

4.12 査読者の守秘義務

査読者は、投稿記事の査読や採否の審議等を通じて得た情報を、編集委員会に漏洩してはならず、またそれらの情報を利用した行為を行ってはならない。査読者は、その責任の一環として投稿記事の機密性を常に保持することに同意する。また、査読者は投稿記事の査読依頼を受けることにより、以下を遵守することに同意したものとみなす。

- 投稿記事の査読における自身の役割を明らかにしない。
- 投稿記事の著者に身元を明かさない。
- 査読に直接関与していない人と投稿記事やその内容について議論しない。
- 委員の許可を事前に得ることなく、第三者(ポスドクや博士課程の学生を含む)を査読に参加させない。
- 投稿記事のデータや情報を自身の研究や出版物に利用しない。
- 自分自身や他の人の利益のため、あるいは個人や組織に不利益を与えるために、査読の過程で得られた情報を利用しない。

4.13 査読者の利益相反

利益相反は、査読者によって投稿記事の公平な評価に影響を及ぼす可能性のある状況が顕在する/認識されている/潜在的な場合に生じる。具体的には、著者と個人的または職業上の関係がある、著者と同じテーマまたは競合するテーマで研究をしている、研究やその出版物に金銭的な利害関係がある、等が含まれる。

委員は、査読者を招聘する際に利益相反の回避に努めるが、潜在的なバイアスを必ずしも特定できるとは限らない。査読者は、利益相反がある場合は委員へ申告する必要がある、委員は申告に基づき最善の行動を決定する。

5 著作権, オープンアクセスと料金

本誌は完全オープンアクセスであり、クリエイティブ・コモンズライセンス(CC ライセンス)を使用している。このライセンスは、利用者が本誌に掲載された論文を無償かつ出版者や著者の事前承諾を得ることなく使用、再利用を許可するものである。CC ライセンスの詳細は以下の通り。

5.1 著作権とライセンス

投稿記事の著作権は、採録判定後、最終原稿が受理された時点から原則として AXIES に帰属する。その利用は CC ライセンス表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) に従うものとする。このライセンスは、適切なクレジットを表示する限りにおいて、営利/非営利を問わず記事の共有、翻案等の利用を許可するものである。

1. 図・写真などを転載する場合は、その所有者に必ず了解を得た上で、その出典を明記すること
2. 商標もしくは登録商標を使用する場合は該当個所にその旨を明記すること

著者は、自身の論文の著作権を全て AXIES に譲渡するために、著作権譲渡契約書 (Copyright Transfer Agreement; CTA) に署名する必要がある。

助成機関によっては、助成を受けた論文を特定の CC ライセンスの下で公開することを要求していることがある。関連する助成機関への確認は、投稿する前に著者自身によって行われる必要がある。

5.2 論文掲載料 (APC)

本誌は、オープンアクセスであり、読者等に対して購読料を請求しない。査読管理、組版・校正、事務などの費用を賄うため、著者(あるいはその代理人)に対し論文掲載料 (Article Processing Charge; APC) の支払いを求める。なお、投稿料は請求しない。

本誌では、APC が免除される場合(5.3 参照)以外の全ての採録論文に対して APC の支払いが発生する。採録論文の責任著者には、掲載前に APC が請求される。

掲載料は、著者リストに AXIES 会員(正会員・賛助会員)の組織所属著者が 1 名でも入っている場合は、15,000 円/ページとする。著者全員が AXIES 会員組織所属ではない場合は、20,000 円/ページとする。いずれも税込みである。

採録論文は、校正完了時点で事務局から責任著者に CTA、見積書、請求書、納品書が送付される。その後、支払い確認をもって論文掲載 (J-STAGE での公開)、納品完了となる。事務局の指定する期限までに CTA 締結や支払い完了の目処が立たない場合は、予定の巻に登載できないことがある。

5.3 APC 免除方針

本誌は、著者全員が研究組織に所属していない場合、または著者全員が OECD のリストにある「後発開発途上国」または「その他の低所得国」の出身者である場合、論文の APC を免除する。その他の免除については、本誌編集委員会が状況に応じて検討する。著者は投稿記事提出前または投稿記事提出時に APC 免除について申請するものとし、査読開始後の申請は認めない。申請は オンライン投稿システムを介して行うものとする。

著者が APC を支払う能力があるかどうかは、編集上の決定に影響を与えない。不当な影響を与える可能性を避けるため、論文採録の決定に関与する編集委員会委員は、免除審査には一切関与しない。

6 投稿記事の投稿

6.1 初期投稿および再投稿のプロセス

投稿記事は査読管理システム

<https://mc.manuscriptcentral.com/jacn-axies>

を用いて責任著者が投稿する。フォーム上から必要事項を入力したうえで、投稿記事 PDF をアップロードすることにより、投稿が完了する。フォームの入力内容と投稿記事との間に相違がないよう留意すること。

投稿受付、査読結果、採否の通知などの重要な連絡は、AXIES 事務局が差し出し人となり、責任著者のメールアドレスへ送信されるため、axies.jp ドメインについては迷惑メール扱いにならないよう設定しておくこと。

なお、査読ワークフローにおける現在の状態は随時、査読管理システム上で確認することができる。

条件付き採録と決定された場合は、指定する期限内に修正原稿を再投稿すること。再投稿する際は、修正原稿と回答書をひとつの PDF にまとめ、アップロードすること。

6.2 採録後のプロセス

採録後は、 \LaTeX を用いている場合は、刷り上がりイメージの PDF、ならびにソースファイルと図のファイル (PDF, EPS, PNG など) の提出を求められる。Microsoft Word を用いている場合は、PDF ならびに docx ファイルの提出が求められるが、校正時に図のファイルを提出が必要な場合がある。

1. 投稿記事の採録が決まると、採録通知を責任著者に送付する。
2. 採録通知と同時に入稿のための案内を送付するので、その指示に従い、最終原稿を査読管理システム上で提出すること。
3. 校正段階において、ゲラを電子メールで印刷業者から責任著者に送信する。誤字脱字などの変更のみ行える。この際原稿および図面の変更は認めない。
4. 責任著者から誤謬訂正の申し出があった場合、訂正文を掲載することがある。事情により有料となることがある。4.9 節を参照のこと。
5. 採録された論文、レター、招待論文ならびに解説の著者は、APC を支払わなければならない。APC は 5.2 節を参照のこと。なお、場合によって掲載料が免除されることもある。5.3 節を参照のこと。
6. 論文は J-STAGE においてオープンアクセス論文として公開される。

7 投稿記事の準備

7.1 投稿記事のテンプレート

JACN ウェブサイト

<https://jacn.axies.jp>

もしくは査読管理システム (6 節参照) 記載のリンク集から入手可能な Microsoft Word テンプレートや L^AT_EX のスタイルファイルを用いて投稿記事を編集し, PDF を作成すること. 採録決定以降は, 最終原稿の情報をもとに印刷業者で組版を進める. 著者によるテンプレートを用いた組版は, 一般に刷り上がりレイアウトとは異なる. フォントや図表の位置・大きさなども変更されることがある.

7.2 書式

投稿記事は, 「はじめに」節の背景・研究動機などの記述から始まり, 本文を構成し, 「むすび」にて結論を述べる構成である必要がある.

投稿記事の最初のページには, 題名, 著者リスト, 概要, キーワードを記述すること. 著者リストは, 著者全員の名前とそれぞれの所属組織を, 和英両文で書いたものである.

7.2.1 題名

題名は, 和英両文で書く. 題名は, 論文の内容を簡潔かつ明確に示す必要があり, 検索エンジン最適化のためにも重要である. 同じ著者による一連の論文であっても, 共通の題名と番号付きの副題を使用してはならない. 題名には関連分野で一般的に使用されているものを除き, 略語を使用しない.

7.2.2 著者名

著者全員の著者名をフルネームで記述すること. 共著の場合, 著者と所属組織を明確に対応させること. また, 著者の ORCID URL を記入すること.

記述例

学術 太郎 1)[<https://orcid.org/0000-0000-0000-0000>], 情報 二郎 2)[<https://orcid.org/0000-0000-0000-0000>], 処理 三郎 3)[<https://orcid.org/0000-0000-0000-0000>]

なお, 採録後は組版において ORCID はロゴとともに URL として埋め込まれる.

7.2.3 所属組織

所属組織の名称(学部, 研究所/大学, 企業, 市区町村, 県, 国を含む)を記入する. 異なる組織に所属している著者がいる場合は, それぞれの組織を上付き記号の数字を用いて示す. 所属組織の変更等を記載する必要がある場合は, 脚注に記載し, 上付き記号(*や**など)で示す.

記述例

1) ○○大学メディアセンター, 2) ○○大学大学院情報学研究科, 3) ○○研究所通信システム部

なお, 著者リストは初期投稿以降は原則として変更できない(3.4 節を参照).

7.2.4 キーワード

最大で 5 個のキーワードを記載する.

7.2.5 欄外表題

ランニングタイトル(欄外表題)はタイトルが全角 30 文字(半角 60 文字)を超える場合は省略タイトルを指定すること.

7.2.6 脚注

注を用いる場合、本文中では 1), 2), 3), 4) – 6) のような形で注番号を示し、参考文献の前に注のリストを記載すること。

7.2.7 概要

概要は、500 字(レターは 250 字)以内とする。概要は論文の主旨を 1 つの段落で明確に表現し、扱う問題、手段、主な結果と所見、結論を含むものとする。特定の略語の使用は避けること。

7.2.8 はじめに

「はじめに」は序論にあたり、論文の広範なレビューは含めず、読者が調査の目的や関連分野の他の研究との関係を理解できるように、十分な背景情報を提供する。

7.2.9 むすび

「むすび」は結論または考察を簡潔にまとめ、結果の解釈を記述する。新しいモデルや仮説は、実験で得られた結果から示唆される場合に限り、本節で提示できる。実験結果の記述を繰り返す内容であってはならない。

7.2.10 謝辞

必要最小限なものを簡潔に記述する。研究に関する全ての競争的資金の名称をまとめて記載する。

7.2.11 参考文献

研究内容に関連して文献を引用する場合、関連する本文中の個所に角括弧を用いて参考文献番号を書き、末尾にその文献をまとめて記述する。参考文献は、本文で [1], [2, 3], [4–6], [2, 4–6] のように出現順番号で参照し、その順で参考文献リストを作成すること。参考文献リストは以下記述例を参考とする。

記述例

- [1] 佐藤 翔, 鈴木 美咲: キャンパス内トラフィック解析によるハザードポイント特定, 学術情報処理研究, Vol. 24, pp. 12–34, 2020. DOI: https://doi.org/10.24669/jacn.24.1_12
- [2] 高橋 大輝, 田中 陽菜: 遠隔業務における着座時間と業務成績の関係, ○○学会論文誌, Vol. 15, No. 4, pp. 31–39, 2020.
- [3] A. Quesesease, et al.: Beyond the BYOD, Virtual Publisher, New York, 1998.
- [4] 大学 ICT 推進協議会: トップページ. <https://axies.jp/> (2022 年 2 月 2 日参照)

参考文献に関する情報の完全性は著者が担保すること。URL の到達性には十分注意すること。

7.2.12 略語

略語は、本文中の初出時(タイトルと概要を除く)に、省略していない形の記載の後に括弧書きを行い定義する。ただし、次の略語については一般的であるとし、上記の定義を行わずに使用してよい。

7.2.13 単位

国際度量衡局^{*8} が示す国際単位系(SI)あるいは SI 由来の単位を使用すること。

^{*8} <https://www.bipm.org/en/measurement-units>

7.2.14 図・表

図や表は、投稿記事内では、適切な位置に図表を埋め込み、構成すること。また、「図 1」「表 2」のように通し番号を振り、和文または英文でキャプションを付けること。

「図」には、線画、写真、チャート、グラフなどが含まれる。印刷に耐えうる高解像度の画像を使用すること。

最終原稿提出時には、オリジナルの Excel や PowerPoint ファイルの最終版も併せて送付する必要がある。校正時には図表の位置やサイズ等は変更となることがある。

7.2.15 付録

数式の誘導過程や、アルゴリズムの説明など、本文に挿入すると冗長、ないしは論旨が不明瞭になる場合、付録に記述する。

7.3 その他

本文中に著者が記述した URL は原則そのままテキスト表示される。URL のリンク先コンテンツへの到達性、リンク切れ等には十分注意すること。一方で、著者により投稿記事内にハイパーリンクが設定されていても、校正時にそれらは解除される。

なお、PDF 内に URL が記載されている場合、多くの PDF ブラウザは URL をハイパーリンクとして認識するが、本誌においては、著者リストにおける ORCID 以外はハイパーリンクの設定は行わない。

8 採録された投稿記事

採録された投稿記事は、出版前に印刷業者よって校正と組版が実施される。採録された投稿記事に関する全ての連絡は、印刷業者と責任著者との間で行われる。

8.1 校正

責任著者は、印刷業者からページ校正の依頼について 48 時間以内にチェックして返送すること。なお、校正の段階では、組版のミスや誤字・脱字以外の修正は認めない。図表の変更も認めない。また、J-STAGE 公開後に論文 PDF を差し替えることはできない。訂正に関しては 4.9 節を参照のこと。

8.2 別刷(リプリント)

別刷りは印刷・発行しない。

9 連絡・問い合わせ

本誌に関する事務局/編集委員会委員長宛の連絡・問い合わせは以下を参照のこと:

大学 ICT 推進協議会 (AXIES) 事務局
住所: 〒606-0802 京都府京都市左京区下鴨宮崎町 119-1
TEL: 075-781-2035
Email: office@axies.jp

履歴

- 2022年5月2日制定
- 2023年2月1日改定